

## 優秀賞

### 水について考える

今、地球温暖化が問題になっていますが、私たち人間を含めた生物が生きていくのに必須の「水」にも深刻な問題がいくつも存在します。

地球は水の惑星と言われていますが、地球上にある水の中で飲み水として利用できる真水がどのくらいあるのか調べたところ、地球上の九十八%が海水で真水である淡水は二%しかなく、しかもその大部分は南極や北極にある氷山であり、私たち陸上生物が利用できる真水は全体の〇・〇一%にも満たないことがわかりました。

さらに、人命に関わる水の問題も起きているようです。現在、世界の七億人の人々が水不足の生活環境の中で生活しているそうです。水を得ることができずとも、不衛生な水しか得られず病気になり毎日数千人の子供が亡くなっているとのことでした。

実際に、水不足の地球では干ばつや地下水の減少、湖沼が小さくなるなど、食糧を作るための農業用水が十分に得られず、食糧不足になっています。

私の周囲では、蛇口をひねれば飲み水が出るし、好きな時にシャワーを浴びることが出来ます。また、飲むことの出来る水で洗車をしたり、夏になるとプールで楽しんだりしているから自分とは関係ないことだと思っていました。

しかし、調べますと、地球規模の水不足が起きている原因は、アメリカや日本、ヨーロッパなどの先進国の水の大量消費にあることがわかりました。日本も水の大量消費国なので、私の周囲の状況から水不足を認識できないのも仕方ないのかもかもしれません。さらに大きな問題として、ほとんどの物を輸入に頼っている日本は、輸入先の国がその生産

矢吹町立矢吹中学校 三年 青山あおやま 星空きょくせい

に必要な水を間接的に消費しているという事です。例えば、日本は大豆、牛肉などを大量に輸入しているのです、水も間接的に消費しているのです。

私達の住んでいる日本は、田んぼなど多く農業用水も整備されています。田植えのシーズンになってくると、田んぼは水を豊富にたたえています。このような水が豊富にあると勘違いしてしまう生活環境の中で、私は地球規模の水不足に対して、どうしたらよいかを真剣に考えてみました。

ところが、真剣に考えれば考えるほど、結局は幼い頃より現実味を感じないながらも、しきりに言われていた、身近な「節水」が自分たちにできる水不足対策ではないのではないかと思いました。

シャワーの出しっぱなしを無くす、洗面は洗面器に水をためて行う、風呂の残り湯を再利用して使う洗濯、水洗トイレの水量をしぼる、少し思い出しただけでも小さい頃から、節水について言われ続けていたことを改めて感じました。自分自身のこととして、しっかり認識していなかっただけなのです。また、水が汚染されてしまうと、使える水が減りさら

に水不足になっていってしまいます。汚染させないためにも、ごみなどを水に捨てないようにするなど環境に配慮していくことも、水不足を解消するための対策になるのではないかと思います。

今回、水の間接消費を新たに知ることができたので、これまでの身近な「節水」に加えて、水を汚染しないようにするために環境に配慮していくこと、またできる限り国内産の物を買うことにより、海外での水の消費量も減っていくのではないかと思います。何より大切なことは、私たち一人一人が水不足を自分のことと認識して、「節水」などに取り組んでいくことだと思いました。